

## 第3回 上市町地域公共交通活性化協議会 議事概要

### 1 開催日時

令和元年12月26日(木)10時00分～11:30分

### 2 開催場所

上市町役場4階 ホール

### 3 出席者

小竹会長、酒井副会長、猪井委員、林委員、駒井委員(代理細川様)、安達委員(代理小川様)、石橋委員(代理石田様)、大井委員、竹田委員、出村委員、坂井委員(観光協会/商工会 会長)、水井委員(代理 有賀教頭)、佐竹委員、山下委員、奥井委員、佐々木委員、長谷川委員、開田委員、清水委員(代理 田村主任)、高慶委員、酒井委員、廣田委員、中村委員 計23名

事務局 中村企画課長、碓井主幹、成瀬係長、  
(福祉課 田中主幹、高原主事、教育委員会事務局 松井主任)

### 4 欠席者

吉川委員、小竹委員(県バス協会専務理事)

### 5 議題及び議事要旨

① 開会

② あいさつ(上市町 小竹会長)

③ 協議及び報告事項

#### [報告]

- (1) 期間限定の料金減免イベントの実施状況について
- (2) 運送する旅客の範囲の拡大について
- (3) 町営バス実証運行状況(速報)

#### [協議]

- (1) 上市町地域公共交通網形成計画について(素案)
- (2) 地域公共交通確保維持改善事業の一次評価について

#### [協議結果]

以下について、拍手多数により承認された。

#### 協議(1)

頂いた意見を「会長預かり」として必要な修正を行い、年明け中旬に素案ベースとして、パブリックコメントを行う。

#### 協議(2)

内容了解し、国への報告、並びにHPにて公表を行う。

#### ④ 主な意見・質疑等

##### [報告(2) 運送する旅客の範囲の拡大について]

###### < 意見 >

(委員) 町外から来訪してバスを利用された方が、車内で小銭の両替ができない、両替を頼むと運転手も小銭を持っていないため、降りた先のお店で両替するなど事態があった。今後、バスの中で両替できる状況にした方が良いのではないかと。電車からバスへ乗り継いで来た人の中には、電車を降りた後、両替する時間がなく小銭の準備が難しい人もいると思う。

⇒(会長) 両替の手間を改善することを目的の1つとして、上市駅構内で町営バスのチケットを買えるようにしている。そういった取り組みを、今後PRしていきたい。両替の時間がないときの利用者への対応については、今後検討が必要であると思う。

##### [報告(3) 町営バス実証運行状況について]

###### < 意見 >

(委員) 白萩線と陽南線の収支率を説明しているが、収支率については住民レベルでは理解できないところがある。地元住民と対話を進める際には、利用者1人当たりの費用負担額で示すなど工夫してみたいか。例えば、陽南線では、1人の移動につき約6,000円の費用負担になっているというふうに、具体的にイメージが付きやすい数字で地元住民に説明した方が良いと思う。

(委員) デマンド路線については、利用者の特典を与えて、電話を掛けさせる雰囲気を作ることが大切であると思った。例えば、デマンド路線利用者には、電話を掛ける手間をかけているので、その負担をお返しする形として、デマンドバスの多数回利用者には無料券や買物券を渡す等。

また、予約のりあいにおいて、これまで定時定路線で乗っていた人が、乗らなくなったということについて、地元との意見交換を行うことは意義あることだと思う。

(委員) デマンド路線の予約受付について、今は前日18時までとしているが、例えば、事業者の対応が可能であれば、当日予約にするなど柔軟な対応を検討してはどうか。

また、午後の便が入りづらい現状であり、変更・キャンセルの場合の期限などをもっとPRするなど、利用しやすくなる工夫が必要ではないか。

(委員) 上市高校生の利用に関して低調であるとのことだが、8時15分上市駅着の電車に合わせたダイヤにして頂けると、高校生の利用は増える可能性がある。また、上市高校生からするとこれまで、駅から高校までの移動手段にバスという選択肢がなかった。このため、「バスも使える」ということが浸透するまでは時間が必要ではないかと思う。

(委員) 南加積線は便数も増え、乗りやすくなった。PRの方法次第でまだまだ利用者は増えると思うので、しっかりPRしてもらいたい。

## [協議(1) 上市町地域公共交通網形成計画(案)に関して]

### < 意見 >

- (委員) 「第5章 実施方針2-1 実施事業12(クロスセクター効果)(P68)」について、住民に公共交通の大切さを知ってもらうことも大切だが、それ以上に住民の共感を得られるような情報を与えることが必要であると思う。分析結果(アウトプット)だけではなく、それを読み解き得られる成果(アウトカム)を住民に割りやすくし、公共交通が何を(誰を)支えていることを定性的に示した情報を与えないと住民から共感や議論は生まれない。
- (委員) 「第5章の実実施方針3-2 イベントと連携した公共交通の利用機会創出(P71)」について、親子でお出かけや県・市町村統一ノーマイカーなど今後とも広域な連携をお願いしたい。
- (委員) 第5章の計画の達成状況の進捗管理、評価・検証(P76)について、各主体の役割に関しては、町だけが取り組むのではなく、いろいろな主体が参画して取り組むことに留意いただきたい。また、計画は、「作って終わり」ではなく、運用していく(まわしていく)ことが非常に大事である。